7.0型ワイドタッチパネルTV付
DVD-V/CD・WMA/MP3対応・HDDナビゲーションオートサーバーセット

AVIC-XH900 取付説明書

本製品はJEITAコードカラーに対応しています。

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も合わせてご覧ください。

PRINTED WITH SOY INK

この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア株式会社
〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2004

< KKNZF > < 04E00000 > < CRA3645-A >

作業の進めかた

① はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する —— 2ページ

② 接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと —— 6ページ
- 接続端子のなまえと働き —— 8ページ
- システムの接続（1） —— 10ページ
- システムの接続（2） —— 12ページ
  「ND-B5」「ND-ETC3」「TVM-W6500」
- システムの接続（3） —— 14ページ
  「DEQ-P9」「AXM-P9」
- 電源コードの接続（1） —— 16ページ
- 電源コードの接続（2） —— 18ページ
- VTR・バックカメラの接続 —— 20ページ
- IP-BUSメインユニットとの接続 — 21ページ
- VICS/FM多重アンテナの接続 —— 22ページ

③ 取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと —— 24ページ
- ハイダウェイユニットの取り付け —— 25ページ
- ナビゲーション本体の取り付け — 30ページ
- TVモニターの取り付け —— 34ページ
- GPSアンテナの取り付け —— 38ページ
- 音声認識用マイクの取り付け —— 40ページ
- リモコンの取り付け —— 42ページ
- 音声認識コントローラーの取り付け — 44ページ
- フィルムアンテナの取り付け —— 48ページ

④ 接続・取り付けが終わったら

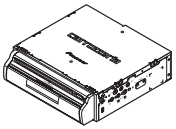
- 接続の取り付け・確認を行う —— 54ページ
- AV入力の設定を行う —— 56ページ
- センサー学習のエラーメッセージ —— 58ページ

メモ

- 接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認（☞54ページ）・AV入力の設定（☞56ページ）を行ってください。

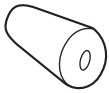
接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係

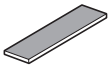

ナビゲーション本体 ×1


トラスネジ (5 × 6 mm) ×4


皿ネジ (5 × 6 mm) ×4


ブッシュ ×1

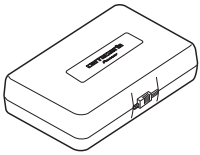

ネジ ×1


マジックテープ（やわらかい方）×2


マジックテープ（かたい方）×2

ブレインユニット関係

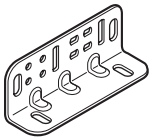

ブレインユニット ×1

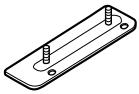

キャリングケース ×1

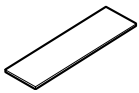
ハイダウェイユニット関係



ハイダウェイユニット ×1


取付アングル ×2


取付ベース ×2


粘着テープ ×2


蝶ナット (6 mm) ×4

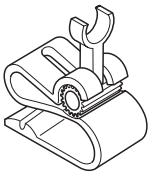

座付きネジ (5 × 8 mm) ×4


タッピングネジ (6 × 16 mm) ×4

マイク関係



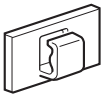
音声認識用マイク × 1



マイククリップ × 1



両面テープ (23 × 14 mm) × 1



クランパー × 5

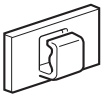
GPSアンテナ関係



GPSアンテナ × 1



金属シート × 1

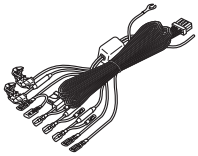


クランパー × 5

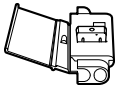


防水パッド × 1

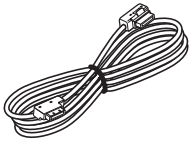
接続ケーブル関係



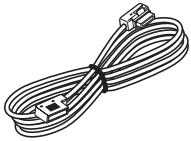
電源コード× 1



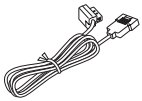
Uエレメントコネクター × 1



30ピンRGB ケーブル × 1



30ピンRGB 延長ケーブル × 1



携帯電話接続中継 ケーブル × 1

メ モ

● ブッシュを使用したナビゲーション本体の取り付けを行う場合、本機に付属のネジとブッシュを使用してください。別売の取付キットに同梱のネジ、ブッシュを使用すると、正しく取り付けられないためナビゲーション本体の故障の原因となります。

接続・取り付け部品を確認する

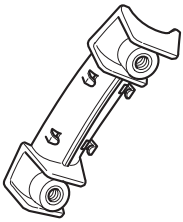
音声認識コントローラー関係



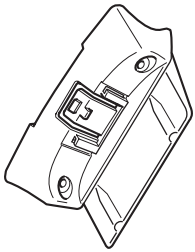
音声認識
コントローラー × 1



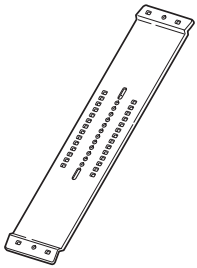
リチウム電池
(CR2032) × 1



インナーホルダー
× 1



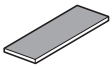
アウターホルダー
× 1



ベルト × 1



六角穴付きネジ
(3 × 6 mm) × 2



マジックテープ大
(やわらかい方) × 1



マジックテープ小
(かたい方) × 2



六角レンチ (2 mm)
× 1

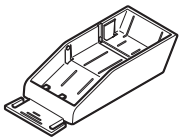
リモコン関係



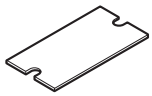
リモコン × 1



単4形アルカリ
乾電池 (LR03) × 2



リモコンホルダー× 1

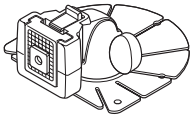


両面テープ
(57 × 34 mm) × 1

TVモニター関係



TVモニター × 1



TVモニター
取付金具 × 1



スペーサー × 2

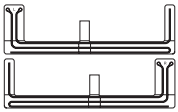


タッピングネジ
(4 × 12 mm) × 5



六角レンチ (3 mm)
× 1

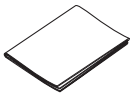
フィルムアンテナ関係



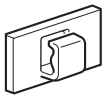
フィルムアンテナ
右用・左用　各1



ブースターアンプ × 1



クリーナークロス × 1



クランパー × 6

接続の前に知ってほしいこと

接続上のご注意

本機と他の製品では同じ働きのコードでも色が異なる場合があります。本機と他の製品とを接続される場合、それぞれの製品に付属の取付説明書をよくお読みになり、同じ働きのコードどうしを接続してください。

- 赤リード線（アクセサリー電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。**接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。**
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。**接続しないと一部の機能が使用できなくなります。**
- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けないでください。**取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。**
- 必ず付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障などの恐れがあります。

接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体ハイダウェイユニットや他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
  - ＊FMトランスミッター送信アンテナ
  - ＊フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
  - ＊FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
  - ＊GPSアンテナおよびそのアンテナコード
  - ＊FM多重用アンテナおよびそのアンテナコード
  - ＊ビーコン受信機およびそのアンテナコード

  それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に**束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。**アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

30ピンRGBおよび音声出力（IP-BUS形状）の接続について

- 30ピンRGBおよび音声出力（IP-BUS形状）の端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください。（コネクターの接続部分が色分けされています。）違う色のコネクターを接続すると、正常に動作しないことがあります。

電源配線キットを別売しています

- **システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不定する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。**当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

携帯電話の専用ケーブルを別売しています

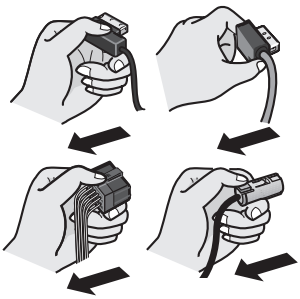
- 当社では、携帯電話と組み合わせるための携帯電話の専用ケーブルを別売しています。
  - ＊PDC用ケーブル「CD-H13」：2 m
  - ＊CDMA 1X/cdmaOne用ケーブル「CD-H14」：4 m
  - ＊FOMA用ケーブル「CD-H15」：2 m

ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線（車速信号入力）は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。（☞『ナビゲーションブック』付録の「ナビゲーションのしくみ」）
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」（別売）をお使いください。

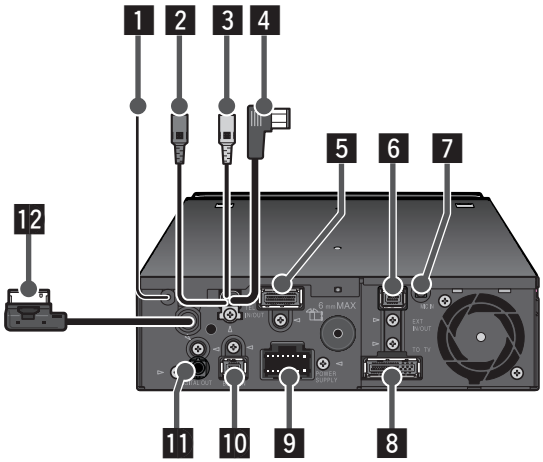
コネクターの着脱のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。

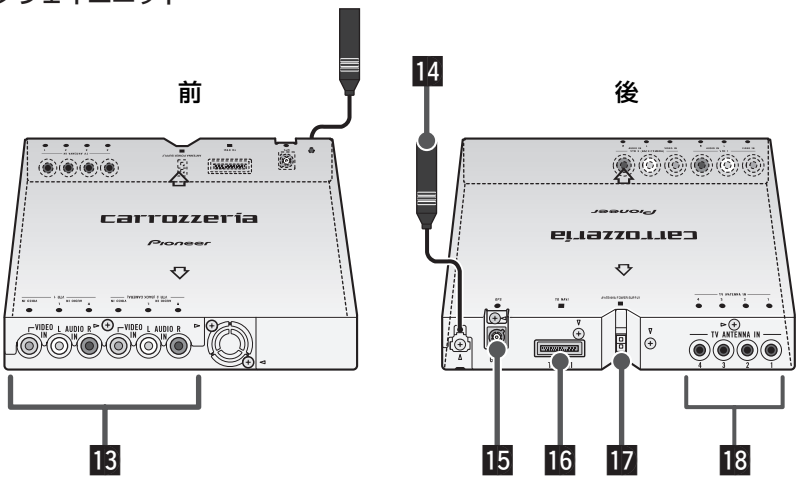


接続端子のなまえと働き

ナビゲーション本体



ハイダウェイユニット



1 FMトランスミッター送信用アンテナ

FMトランスミッターの電波が送信されます。

2 リアモニター映像出力端子 (黄)

リアモニターに接続します。(☞ 12ページ)

3 リモコン信号入力端子 (黒)

パイオニア製の専用のリモコン信号出力端子のある製品に接続します。(☞ 12ページ)

4 音声出力 (青)

本機の音声信号が出力されます。パイオニア製のAUX入力付きIP-BUSメインユニットをお使いの場合、メインユニットのIP-BUS入力（青）と接続してください。メインユニットのAUX（外部機器）の設定をONにして、ソースをAUXにすると、本機の音声を車両のスピーカーで聞くことができます。(☞ 21ページ)

5 電話端子 (赤)

付属の携帯電話接続中継ケーブルを使用し、別売の専用ケーブルを中継して、デジタル携帯電話を接続します。

6 拡張入出力端子 (黒)

別売のアンテナ分離型ETCユニット「ND-ETC3」を接続することができます。

7 マイク入力端子 (黒)

付属の音声認識用マイクを接続します。

8 モニター出力端子 (橙)

モニターに接続します。

9 電源

付属の電源コードを接続します。
(☞ 16 ～19ページ)

10 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売のVICS用ビーコンユニット「ND-B5」を接続します。

11 デジタル出力端子 (灰)

別売の光デジタル端子変換コネクタ「CD-DD25」を使用して、5.1ch対応･DSPユニット「DEQ-P9」を接続します。

12 30ピン入力端子 (赤)

ハイダウェイユニットに接続します。

13 映像入力 (黄)/音声入力 (白・赤)

RCA出力付きポータブルビデオ、バックカメラなどを接続することができます。バックカメラはVTR2のみ接続することができます。(☞ 20ページ)

14 VICS/FM多重アンテナ接続端子

VICS/FM多重放送を受信するためのアンテナを接続します。専用のアンテナを接続する方法、車載のアンテナを接続する方法、フィルムアンテナを接続する方法の、3つの接続方法があります。(☞ 22ページ)

15 GPSアンテナ接続端子 (灰)

付属のGPSアンテナを接続します。

16 30ピン出力端子 (赤)

ナビゲーション本体と接続します。

17 フィルムアンテナ電源

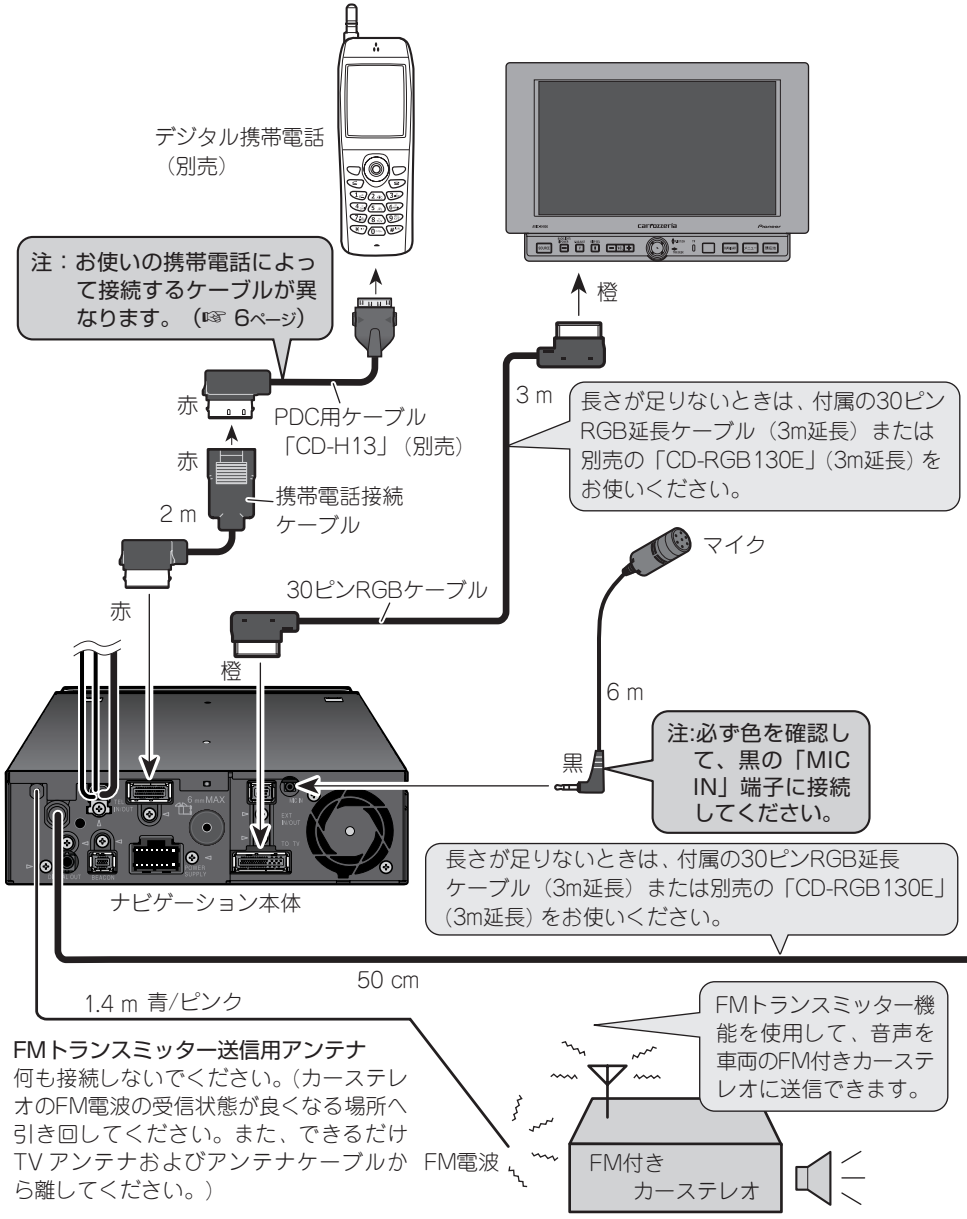
フィルムアンテナの電源コードを接続します。

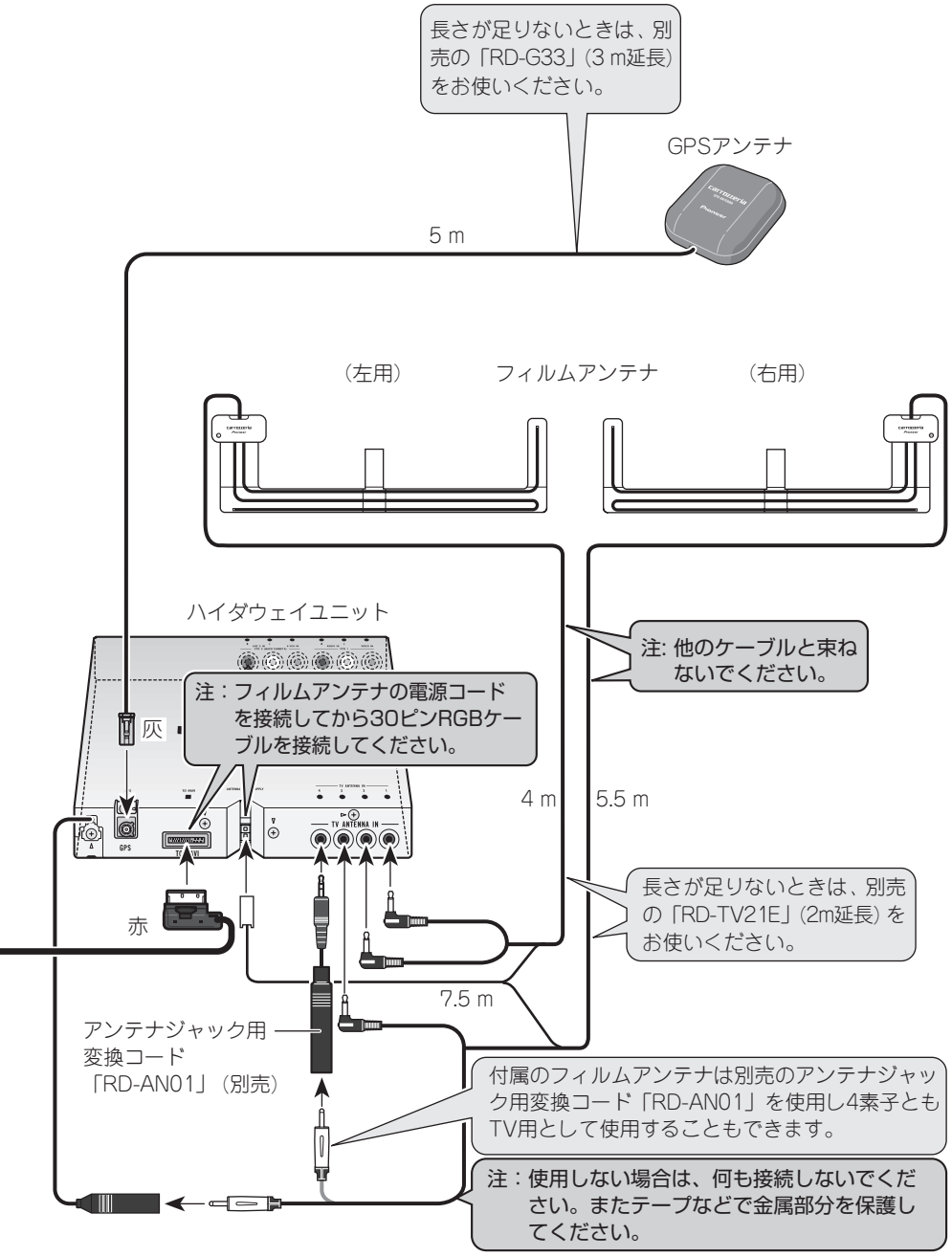
18 フィルムアンテナ接続端子1～4

付属のフィルムアンテナを接続します。1から順に接続してください。

システムの接続（1）

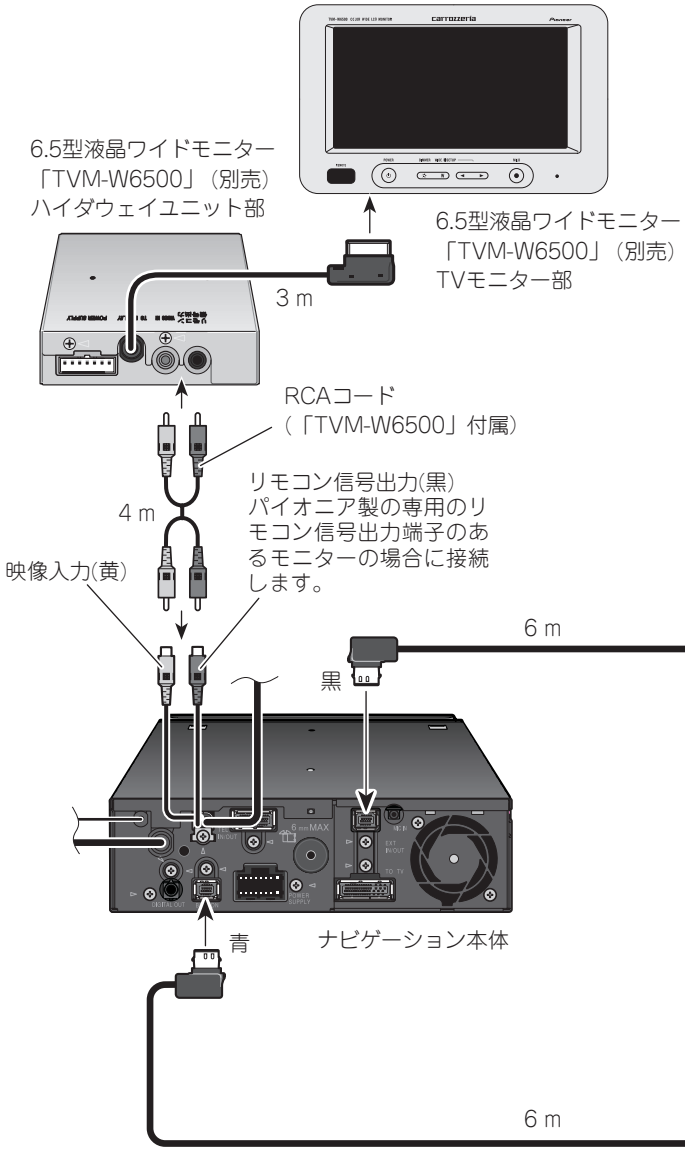
— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —




長さが足りないときは、別売の「RD-G33」(3 m延長)をお使いください。
GPSアンテナ
5 m
(左用)
フィルムアンテナ
(右用)
ハイダウェイユニット
注: 他のケーブルと束ねないでください。
注：フィルムアンテナの電源コードを接続してから30ピンRGBケーブルを接続してください。
灰
4 m
5.5 m
TV ANTENNA IN
GPS
長さが足りないときは、別売の「RD-TV21E」(2m延長)をお使いください。
赤
7.5 m
アンテナジャック用変換コード「RD-AN01」(別売)
付属のフィルムアンテナは別売のアンテナジャック用変換コード「RD-AN01」を使用し4素子ともTV用として使用することもできます。
注：使用しない場合は、何も接続しないでください。またテープなどで金属部分を保護してください。

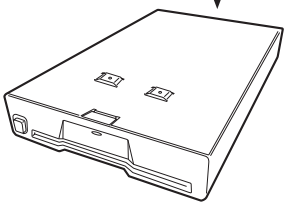
システムの接続（2）●「ND-B5」

― 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください ―



「ND-ETC3」「TVM-W6500」と組み合わせた場合

アンテナ分離型ETCユニット
「ND-ETC3」（別売）



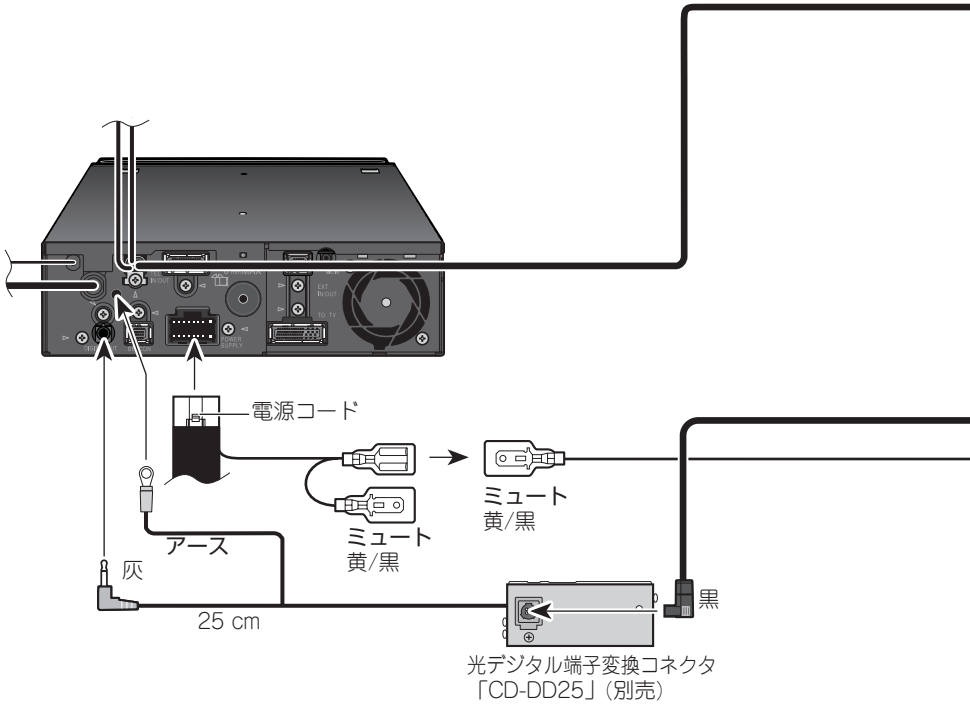
ナビゲーション接続ケーブル
（「ND-ETC3」付属）



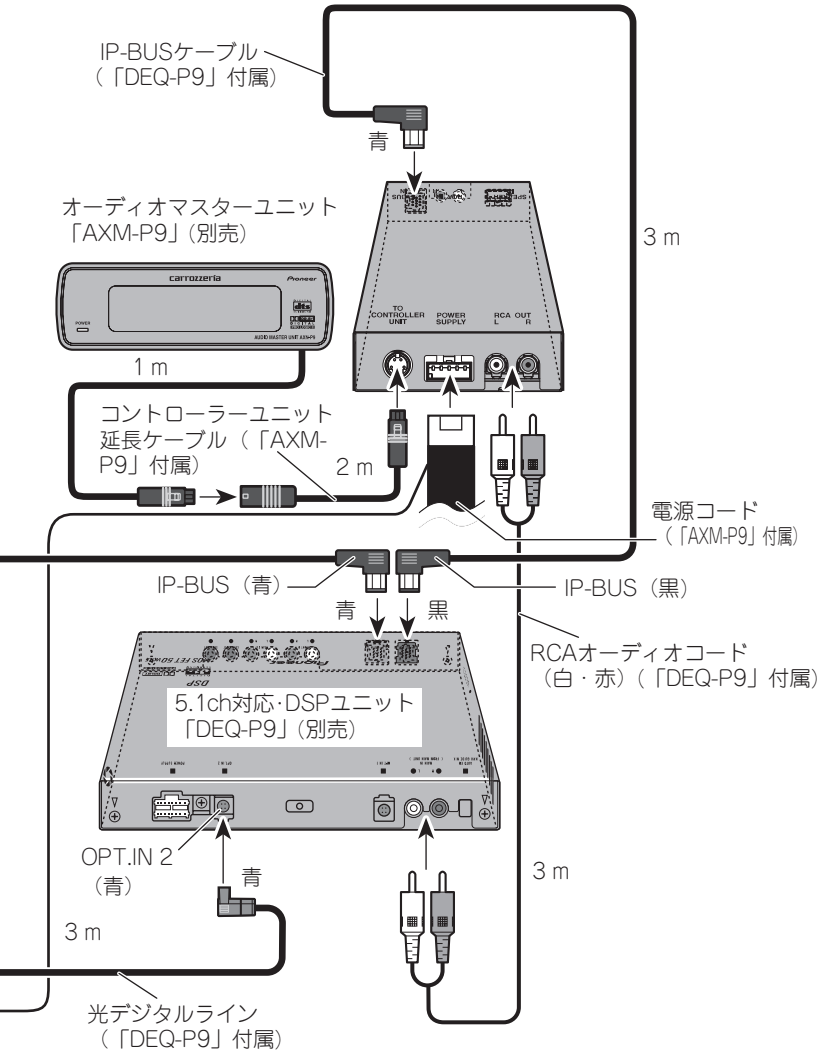
VICS用ビーコンユニット
「ND-B5」（別売）

システムの接続（3）

― 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください ―



●「DEQ-P9」、「AXM-P9」と組み合わせた場合

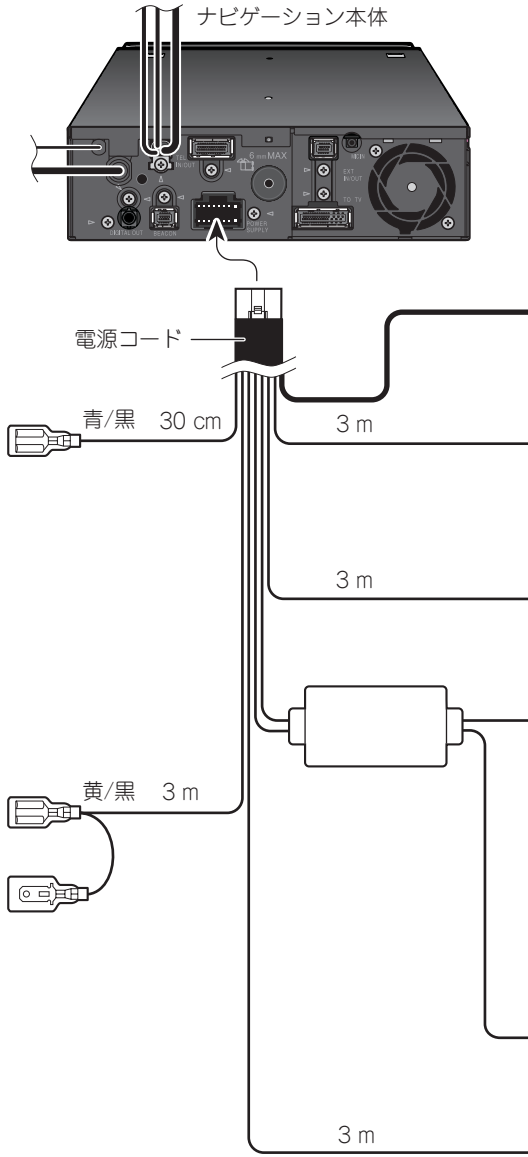


メモ

●リモコン本体内のスイッチ3をONに設定してください。

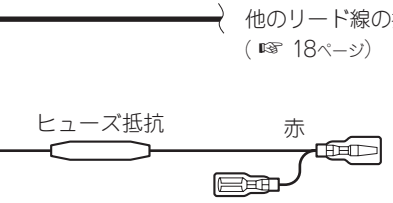
電源コードの接続（1）

― 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください ―

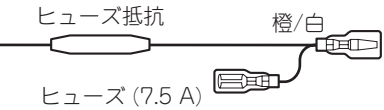


オートアンテナリモートコントロール
FM 多重用アンテナ分配器「RD-FD20」（別売）を使用して車載のアンテナを接続するときのみ使用します。「RD-FD20」の青 / 黒リード線（オートアンテナリモートコントロール）に接続してください。車載のアンテナがオートアンテナの場合は、**エンジンスイッチの ON（本機の電源 ON）に連動してオートアンテナが上がりますので屋内ではご注意ください。**駐車場や洗車などでアンテナを下げる場合 、『ナビゲーションブック』「10 キーをカスタマイズする」をご覧ください。

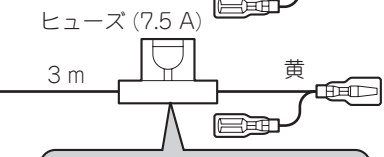
ミュート
パイオニア製のカーステレオと組み合わせるときに、カーステレオに黄/黒リード線（ミュート）がある場合、そこに接続してください。それ以外は何も接続しないでください。音声案内が出力されるときや音声で操作するとき、ハンズフリー通話をするときに、カーステレオにオーディオミュートがかかり音量が小さくなります。（オーディオミュートをかける条件は変更することができます。詳しくは ☞ 『ナビゲーションブック』）



アクセサリー電源
車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。
エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けないでください。バッテリー上がりの原因になります。



イルミ電源
車のライトをONにしたときに、電源が供給される電源回路（時計の照明回路やスモールランプ回路など）に接続してください。



＋バッテリー電源
車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：赤、黄、橙/白リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

注：電源リード線の、ヒューズから本体、およびヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。



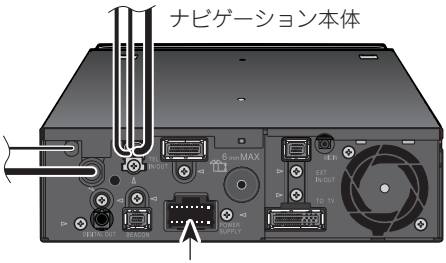
アース
車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。



モニターコントロール出力
パイオニア製のTVモニターのON/OFFをコントロールするために使用します。（エンジンスイッチがONになるとコントロール信号が出力されます。）組み合わせる製品によって、接続のしかたが変わります。詳しくは組み合わせる製品の説明書をご覧ください。

電源コードの接続（2）

— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —



電源コード

他の電源コードの接続は
（☞ 16 ページ）

6 m

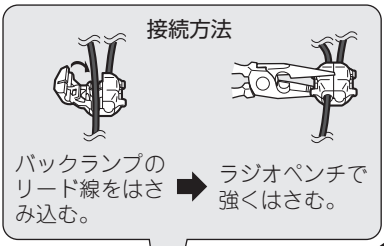
2.1 m

バック信号入力

この接続は車の前進 / 後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

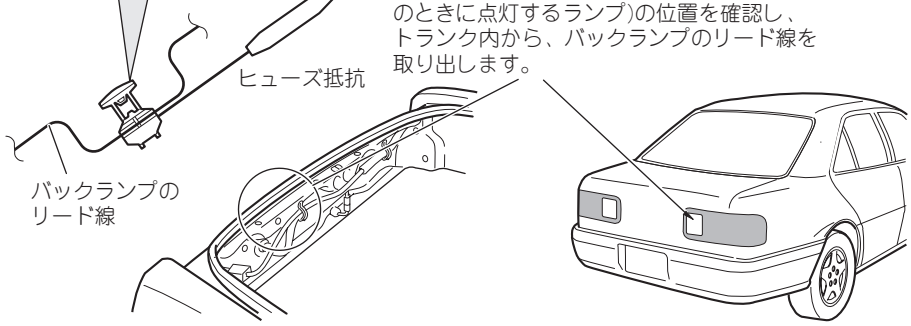
※バックカメラ（バックカメラユニット「ND-BC1」）を利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り替わりません。



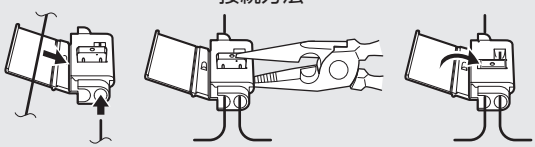
紫/白
8 m

注：電源リード線の、ヒューズから本体、およびヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

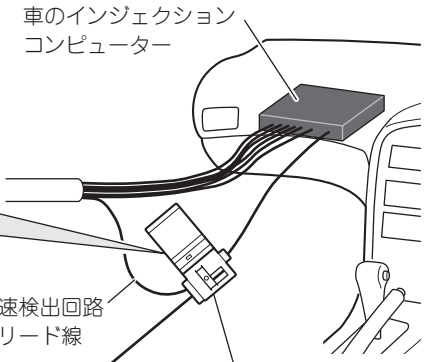
バックランプ(シフトレバーがリバース［R］のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。



接続方法



延長コードと車速検出回路のリード線を穴に通す。 ➡ ラジオペンチで強くはさむ。 ➡ ふたをかぶせる。

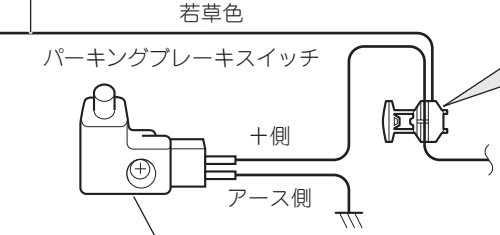


注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

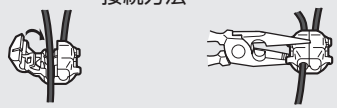
車速信号入力
車の走った距離を検出するために使用します。**必ず車の車速検出回路に接続してください。**（車の車速検出回路への接続が困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」（別売）を接続することもできます。）

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

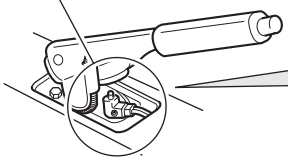
パーキングブレーキスイッチ
車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの＋側リード線に接続してください。



接続方法



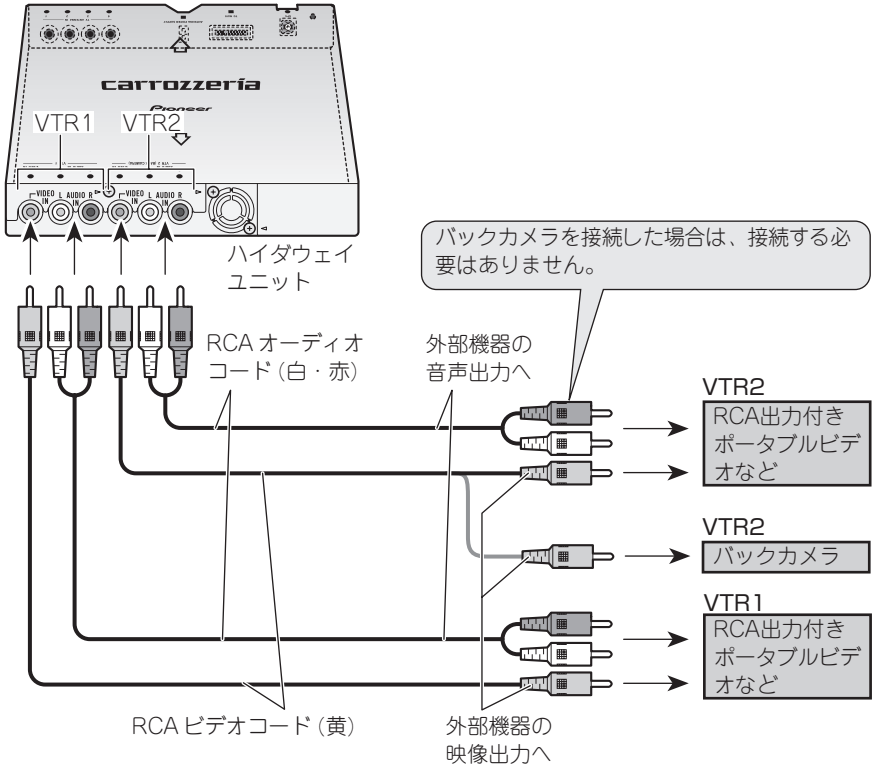
パーキングブレーキスイッチの＋側リード線をはさみ込む。 ➡ ラジオペンチで強くはさむ。



パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

VTR・バックカメラの接続

本機には、市販のVTRやバックカメラ（バックカメラユニット「ND-BC1」）など外部機器が接続できます。

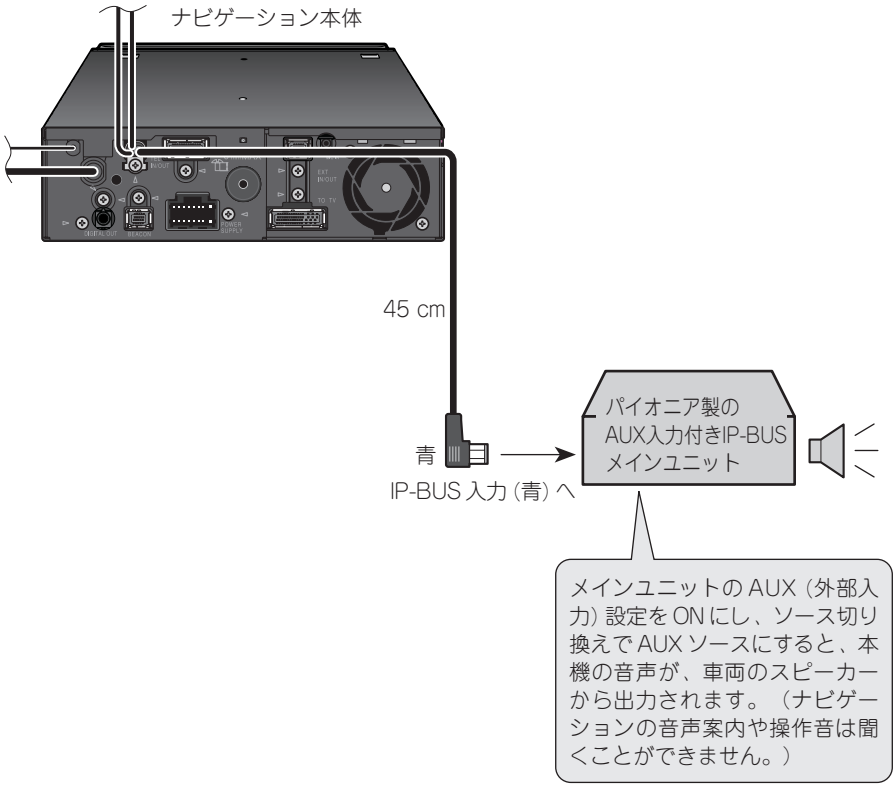


メモ

- 本機の映像入力/音声入力に外部機器を接続した場合は、「システム設定」の「AV入力設定」で「VTR1」または「VTR2」を設定する必要があります。（☞ 56ページ）
- 接続するときは、エンジンスイッチをOFF（本機および接続する製品の電源をOFF）にしてから接続してください。
- 接続する製品の端子の形状に合わせて、各種変換コードをお使いください。
- バックカメラ（バックカメラユニット「ND-BC1」）を利用する場合は、必ず紫/白リード線（バック信号入力）を接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り替わりません。

IP-BUSメインユニットとの接続

パイオニア製のAUX入力付きIP-BUSメインユニットと組み合わせると、本機の音声を車両のスピーカーから出力することができます。
（この場合、本機のFMトランスミッター機能は使用しません。）



メモ

- IP-BUS形状音声出力・RCAインターコネクター「CD-BR10」（別売）をIP-BUS入力（青）に接続し、RCA入力付きメインユニットと組み合わせることができます。

VICS/FM多重アンテナの接続

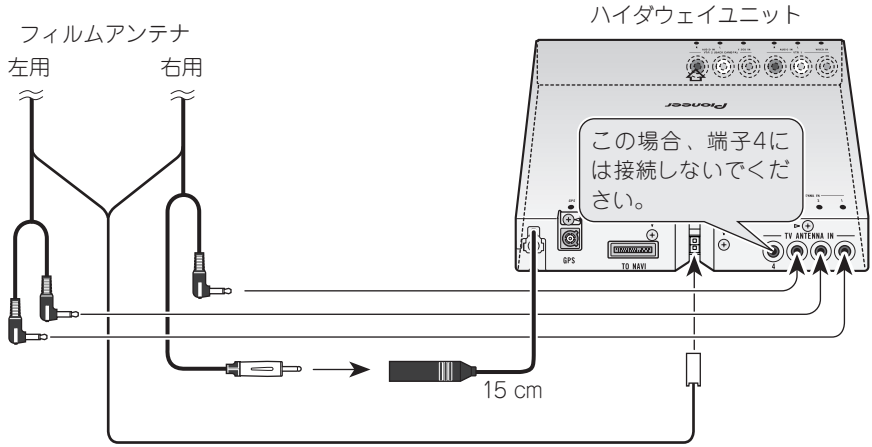
― 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください ―

接続のポイントと接続上のご注意

- 電波の状況により、付属のフィルムアンテナではVICS/FM多重放送が充分受信できない場合があります。その場合、専用アンテナ「AN-8」（別売）または「AN-F10」（別売）を接続するか、FM多重用アンテナ分配器「RD-FD20」（別売）を使用して車載のアンテナを接続することをおすすめします。
- 車載のアンテナがガラスアンテナの場合は、車載のアンテナでは十分な受信感度が得られないことがあります。その場合は、FM多重用として専用のアンテナを接続することをおすすめします。
- 別売のTVアンテナ「AN-GT4」、「AN-G1」、「AN-G2」、「AN-G3」はFM多重用としては使用できません。
- VICS/FM多重アンテナ接続端子に接続されるアンテナケーブルは、他の接続ケーブルと束ねないでください。

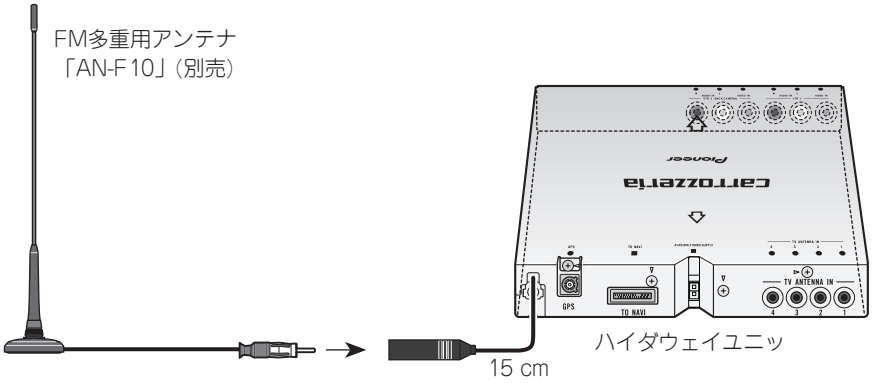
フィルムアンテナを接続する方法

付属のフィルムアンテナの1素子を接続することもできます。



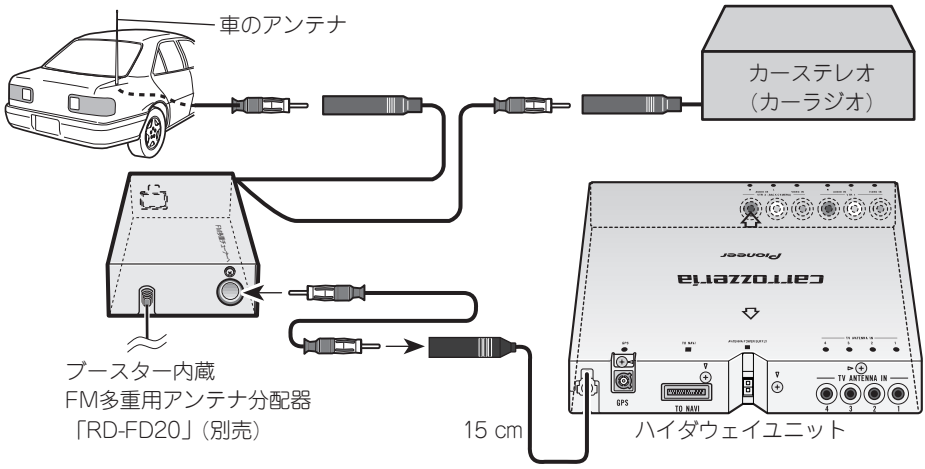
専用のアンテナを接続する方法

専用のアンテナ「AN-8」(別売)、「AN-F10」(別売) を接続します。
注：別売のTVアンテナ「AN-GT4」、「AN-G1」、「AN-G2」、「AN-G3」は使用できません。接続しないでください。



車載のアンテナを接続する方法

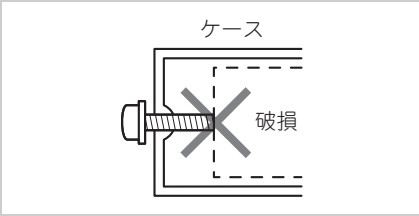
ブースター内蔵FM多重用アンテナ分配器「RD-FD20」(別売) を使用して車載のアンテナを接続します。**車載のアンテナがオートアンテナの場合は、エンジンスイッチのON/OFF (本機の電源ON/OFF) に連動してオートアンテナが上下するように設定してください。**(☞ 55ページ)



取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

● 必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

● まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態の良い位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

● マジックテープや両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

ノイズ防止のために

● フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（☞ 48ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。

● FMトランスミッター用送信アンテナ（青/ピンク）をご使用の場合、FMトランスミッター用送信アンテナ（青/ピンク）の引き回しによっては、雑音が発生したり感度が悪くなる場合があります。その場合、FMトランスミッター用送信アンテナ（青/ピンク）を引き直してください。

● ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体やハイダウェイユニット、他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。

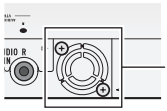
＊ フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
＊ FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
＊ GPSアンテナおよびそのアンテナコード
＊ FM多重用アンテナおよびそのアンテナコード
＊ ビーコン受信機およびそのアンテナコード

それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に**束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。**アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

ハイダウェイユニットの取り付け

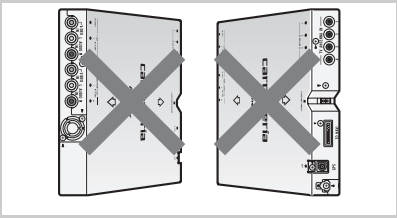
取り付け上のご注意

- 次のような場所には絶対に取り付けないでください。高温により故障する恐れがあります。
  - ＊ ダッシュボードやリアトレイの上のように、直射日光の当る場所。
  - ＊ ヒーターの吹き出し口の近く。
- ドア近くの雨水がかかりやすい場所には取り付けないでください。
- しっかりと固定できる場所を選んで取り付けてください。しっかり固定されていないと、現在地を正しく表示できなくなります。
- 荷物などが当る場所には取り付けないでください。強い衝撃が加わると、現在地を正しく表示できなくなります。
- スペアータイヤ、ジャッキ、工具などの出し入れの邪魔にならない場所を選んで取り付けてください。
- ハイダウェイユニットを設置する床面の下部に、マフラー等の高温になるものがあり、床面が熱くなるような場合、保護回路が働き動作停止することがあります。このような場所には取り付けないでください。
- 放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置して下さい。

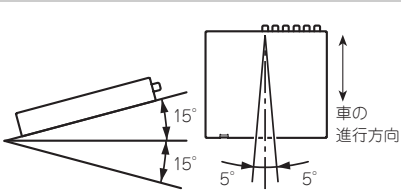


この部分を塞がないでください。

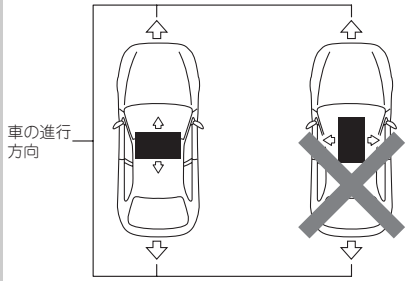
- スペアータイヤボードなど、車の振動で動く場所には絶対に取り付けないでください。
- 縦置きしないでください。故障の原因となります。また、裏返して取り付けないでください。



- ハイダウェイユニットには、3Dハイブリッドセンサーが内蔵されています。性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き15度以内、下の傾き15度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してハイダウェイユニットの前面から5度以内の角度で取り付けてください。



- ハイダウェイユニット天面の矢印が、車の進行方向と同じになるように取り付けてください。矢印が進行方向に対して直角または斜めには取り付けないでください。正しく取り付けられていないと、現在地を正しく表示できなくなります。



ハイダウェイユニットの取り付け

つづき

取り付けのポイント

2つの取り付け方法があります

● 床に取り付ける場合

粘着テープで固定するため、車を加工することなく取り付けることができますが、取り付け強度は取付ボードに取り付ける方法に比べると弱くなります。
(☞ 27ページ)

● 取付ボードで取り付ける場合

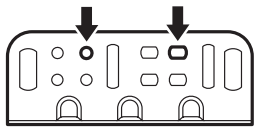
設置した取付ボードに穴を開けて、ネジで取り付けます。しっかりと固定することができます。取付ボードは市販のものをお使いください。(☞ 29ページ)

取付アングルを取り付ける

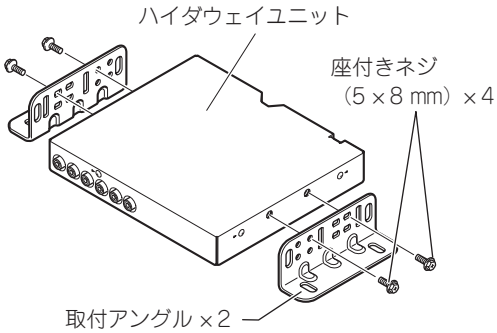
1 取付アングルをハイダウェイユニットに取り付ける

ハイダウェイユニットを車の助手席下などの床や取付ボードに取り付けるには、取付アングルをハイダウェイユニットに取り付けます。

取付アングルの次の穴を使用します。

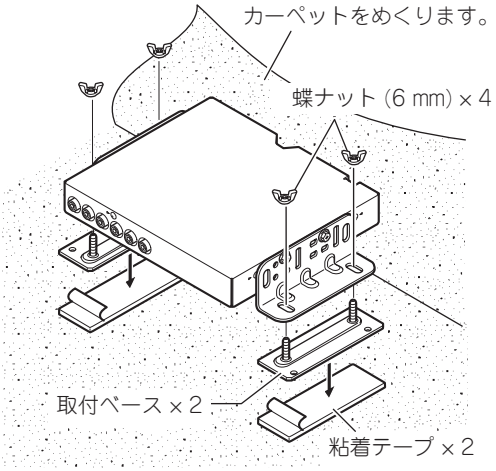


他の穴についても、アングルの位置を平行にずらしてセットしたときに、ハイダウェイユニットの穴と重なれば使用できます。

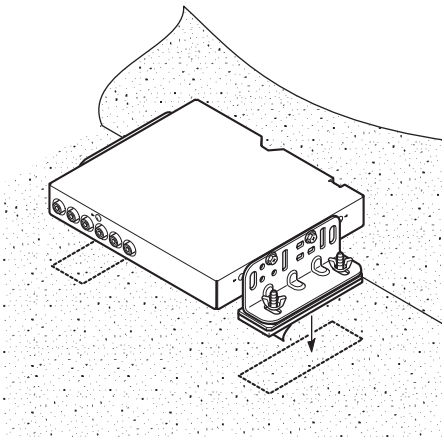


床に取り付ける場合

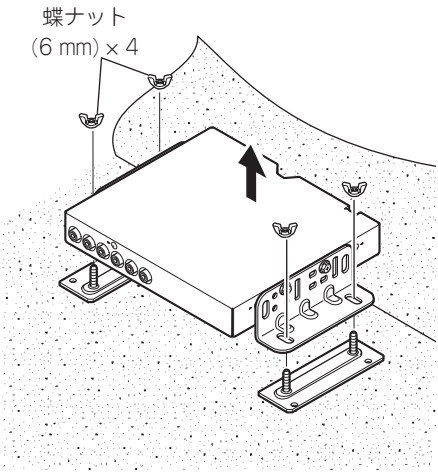
1 取付アングルに取付ベースを取り付ける



2 取り付け位置を決め、粘着テープを貼る



3 蝶ナットを外し、ハイダウェイユニットを一度取り外す

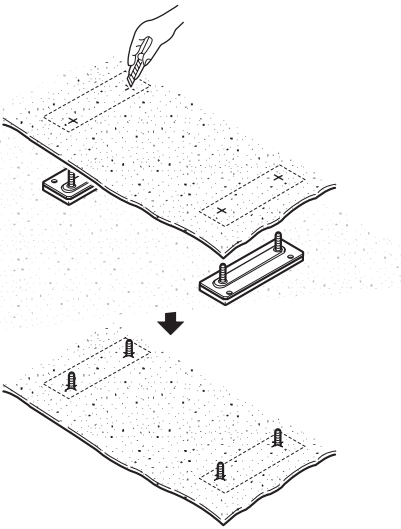


ハイダウェイユニットの取り付け

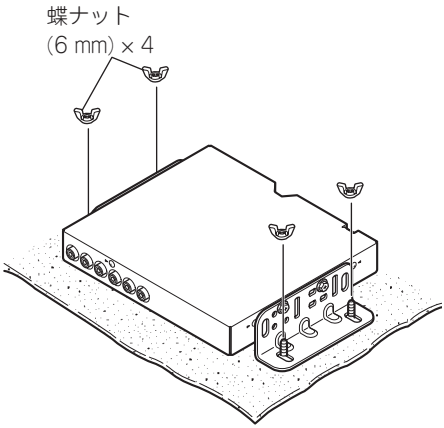
つづき

床に取り付ける場合

4 カーペットを元に戻し、ネジ部をカーペットの上に出す

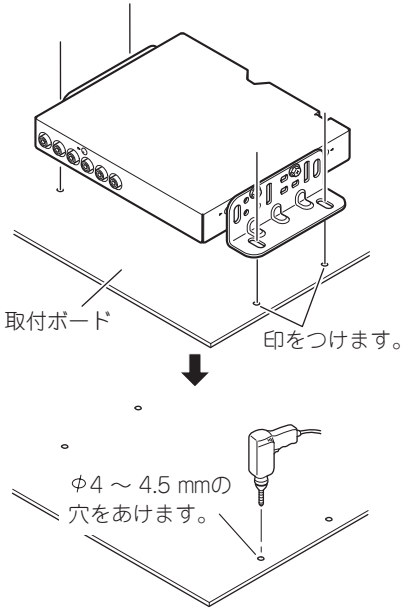


5 ハイダウェイユニットを取り付け、しっかり固定する

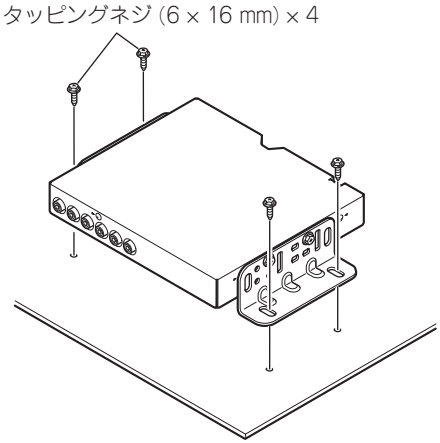


取付ボードに取り付ける場合

1 取り付け位置を決め、穴を開ける



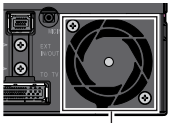
2 タッピングネジで、しっかり固定する



ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- 次のような場所には絶対に取り付けないでください。高温により故障する恐れがあります。
  - ＊ ダッシュボードやリアトレイの上のように、直射日光の当る場所。
  - ＊ ヒーターの吹き出し口の近く。
- ドア近くの雨水がかかりやすい場所には取り付けないでください。
- フロントシートの下に取り付けるときは、シートのスライドに支障がないように取り付けてください。
- 放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。



この部分を塞がないでください。

取り付けのポイント

2つの取り付け方法があります

- **コンソールに取り付ける場合**

  車のコンソールに、通常のカーステレオと同じように取り付けることができます。（☞ 31ページ）

- **床に取り付ける場合**

  マジックテープで固定するため、車を加工することなく取り付けることができます。（☞ 33ページ）

取付キットを別売しています

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付かないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意してありますので、販売店にご相談ください。
- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「AD-N980」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。

トランク取付用に電源ケーブルを別売しています

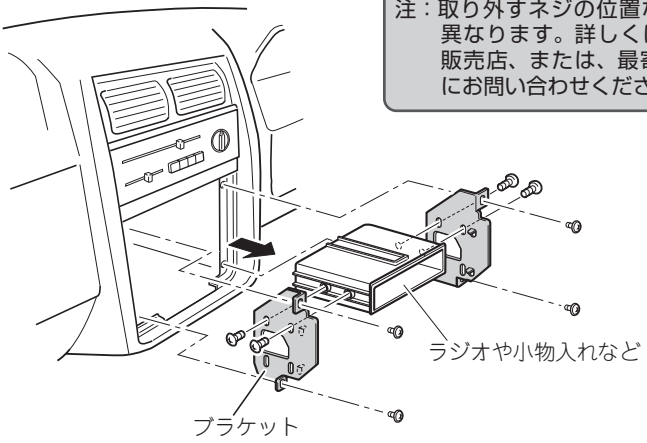
- トランクに取り付ける場合は、別売の電源コード「RD-061」（6m延長）をお使いください。

コンソールに取り付ける場合

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。
そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。

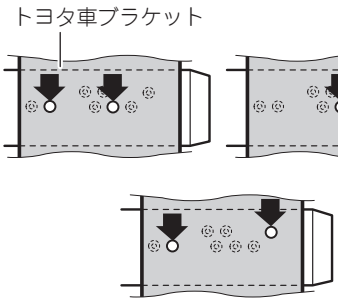
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。



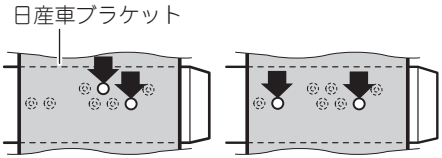
2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。
ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

トヨタ車の場合



日産車の場合



ナビゲーション本体の取り付け

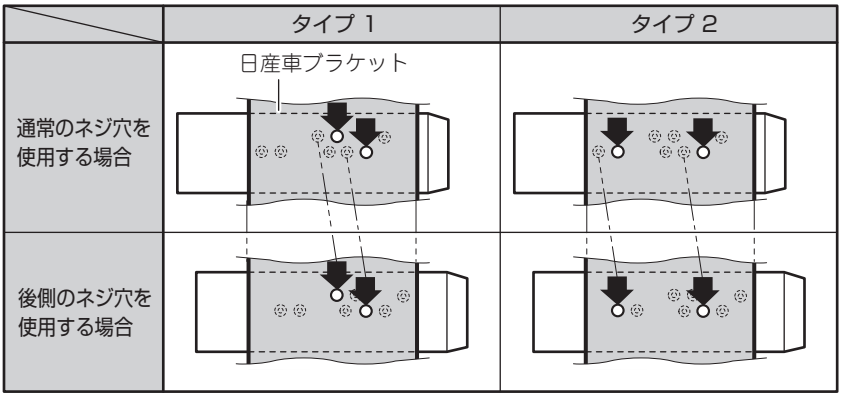
つづき

コンソールに取り付ける場合

■ 取り付けスペースの奥行きが少ない車に取り付ける場合

本機の奥行きは、カーステレオよりもやや長くできています。通常のネジ穴の位置でコンソールに収納できない場合は、使用するネジ穴を後側にずらして取り付ける事も可能です。

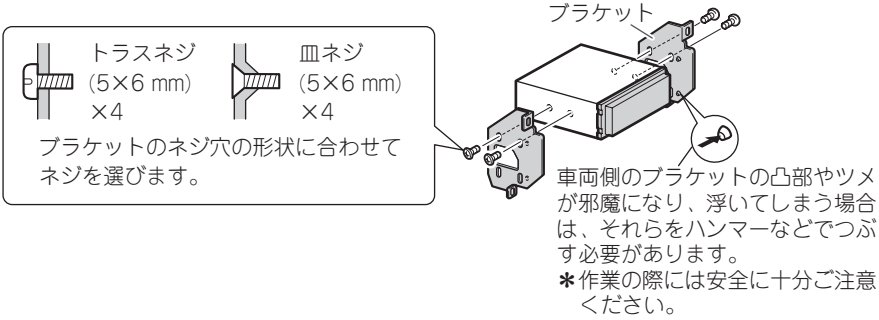
例：日産車の場合



取り付けスペースの奥行きが少ないなどの理由で「後側のネジ穴を使用する場合」には、加工するなどして、必ず片側2箇所ずつビス止めしてください。片側1箇所止めの場合、音飛びや現在地を正しく表示できなくなるなどの原因となります。また、車種によっては窓口パネルの加工なども必要となりますので、商品の取り付けにあたっては、お買い上げの販売店にご相談ください。

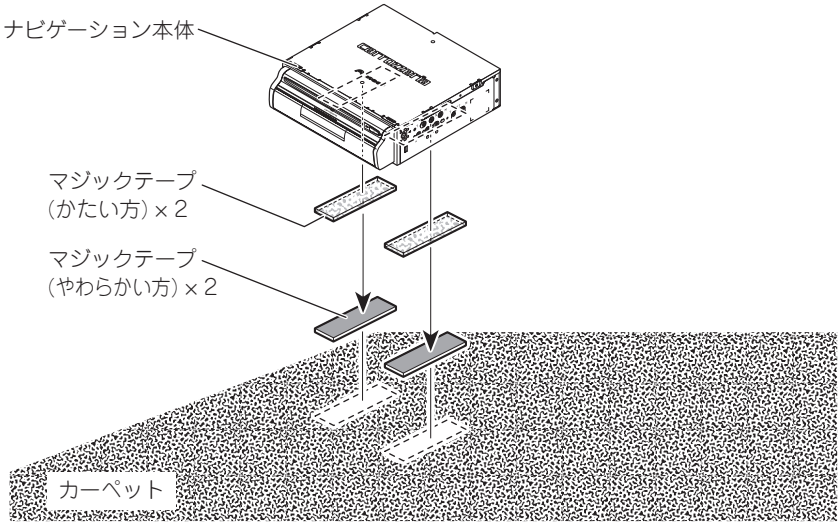
3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ止めして、元通り車に取り付けます。



床に取り付ける場合

付属のマジックテープ（かたい方）をナビゲーション本体の底面に、マジックテープ（やわらかい方）を取り付け場所に貼り付けます。



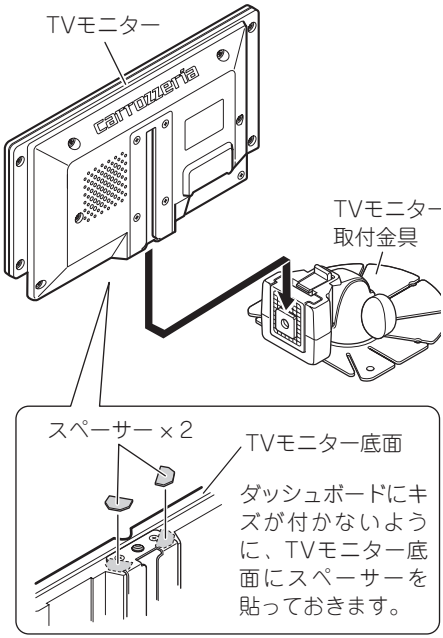
メモ

- マジックテープ（かたい方）がカーペットにくっつく場合は、カーペットに直接取り付けることもできます。この場合、マジックテープ（やわらかい方）は使用しません。

TVモニターの取り付け

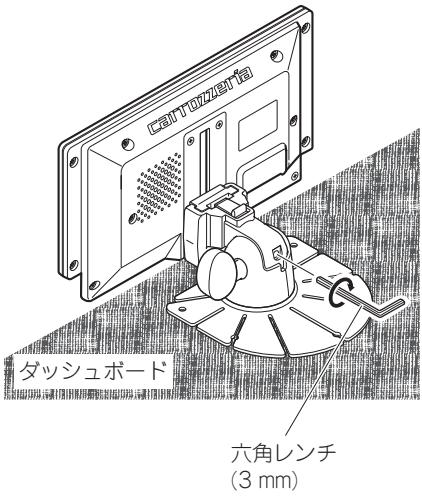
ダッシュボードの上に置いたTVモニターを、取付金具で固定します。

1 TVモニターに取付金具を取り付ける



2 ネジを締めて、いったん固定する

取付金具の後にある穴から、六角レンチの長い方を差し込み、TVモニターが固定されるまで回して締めます。



⚠警告

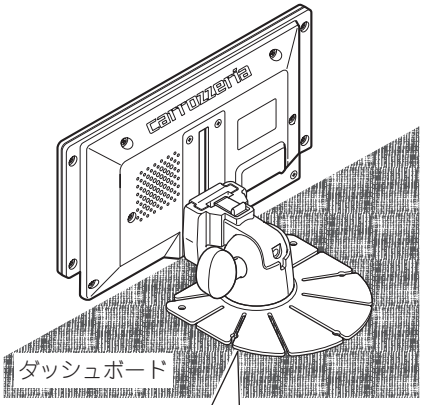
- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグでモニターが飛ばされ、事故やけがの原因となります。

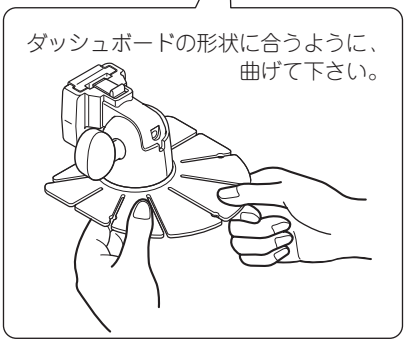
⚠注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。

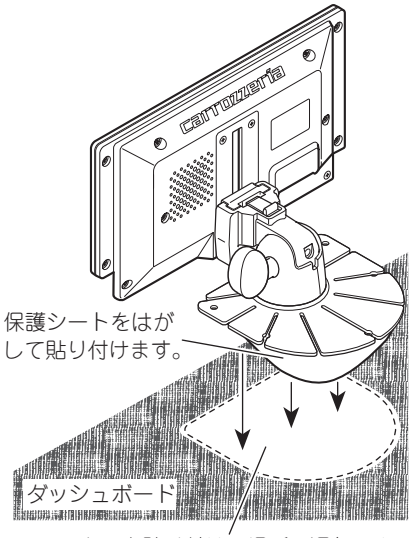
3 TVモニターを取り付ける位置を決める

TVモニター取付金具の裏側の保護シートをはがさずにダッシュボードに当て、TVモニターを取り付ける位置を決めます。





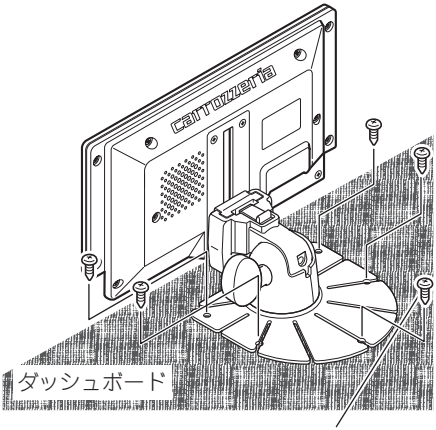
4 TVモニターをダッシュボードに貼り付ける



TVモニターを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを取り除いてください。

5 タッピングネジで固定する

タッピングネジで、TVモニター取付金具をダッシュボードにしっかりと固定します。

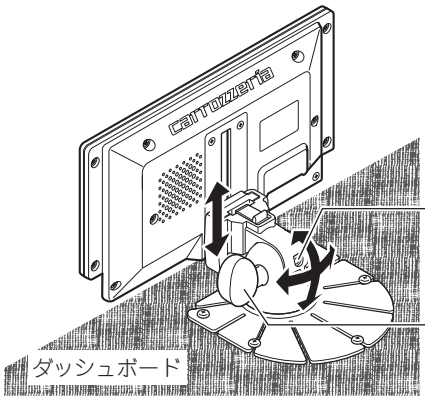


TVモニターの取り付け

つづき

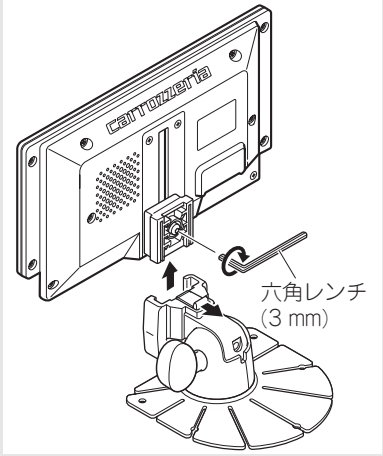
6 TVモニターの底面がダッシュボードに当るように調節する

TVモニターを安定させるため、TVモニターの底面がダッシュボードに当るように（TVモニターをダッシュボードの上に置くように）、上下の高さを調節してください。また、TVモニターを見やすい角度に調節してください。



モニターをしっかり固定するには

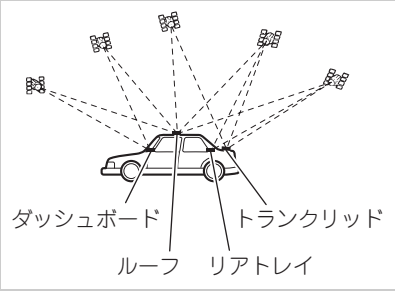
緩めたネジは、調節後しっかりと締め直してください。六角レンチで締めても緩く感じる場合は、次のようにいったん取付金具からデタッチ部分を取り外し、中のネジを六角レンチで締めてください。



GPSアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

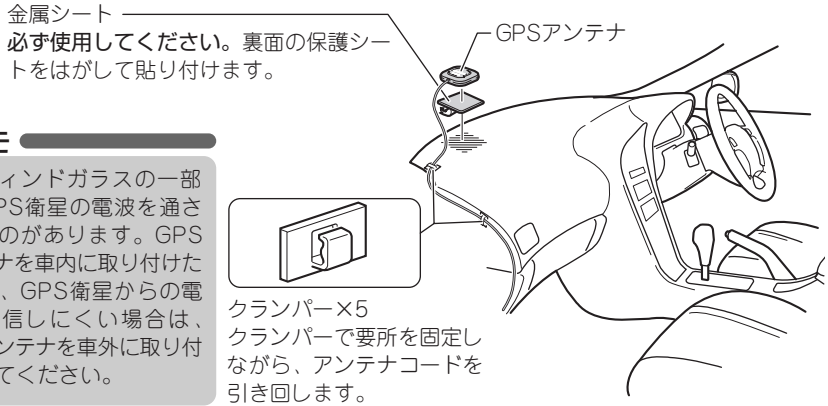
- GPSアンテナは、GPS衛星の電波が車のボディなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。（どの方向からも電波が受信できるように、できるだけ車外のルーフやトランクリッドに取り付けてください。）



- GPSアンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPSアンテナを車内に取り付ける場合は、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPSアンテナは、ナビゲーション本体から30cm 以上離して設置してください。また、あまったGPSアンテナコードをまとめて置くときも、ナビゲーション本体から30cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下してしまいます。
- GPSアンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。アンテナに付いている磁石が強力なため、コードが抜けてしまうことがあります。
- GPSアンテナは磁石で取り付けます。アンテナを車のボディに取り付ける場合は、ボディを傷つけないように慎重に取り付けてください。
- GPSアンテナを車外に取り付けた場合、自動洗車機で洗車するときは、アンテナを取り外して車内にしまってください。アンテナが外れて車のボディを傷つけることがあります。

車内 (ダッシュボードやリアトレイの上) に取り付ける場合

なるべく水平な場所、またはアンテナがウィンドの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPSアンテナを金属シートの上に置きます。（GPSアンテナの磁石で固定されます。）アンテナの取り付け位置は［取付け状態］画面（☞ 55ページ）を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。

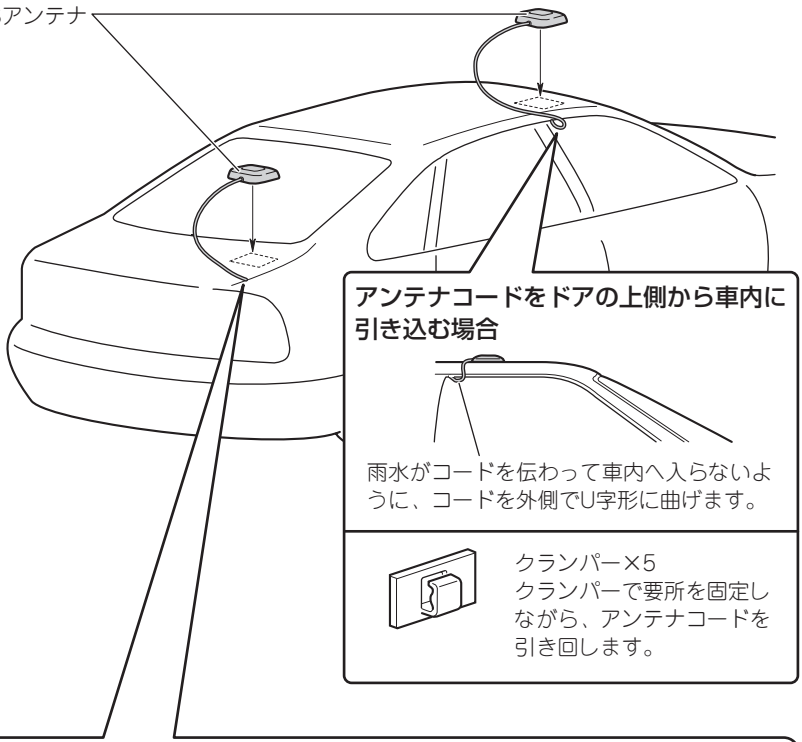


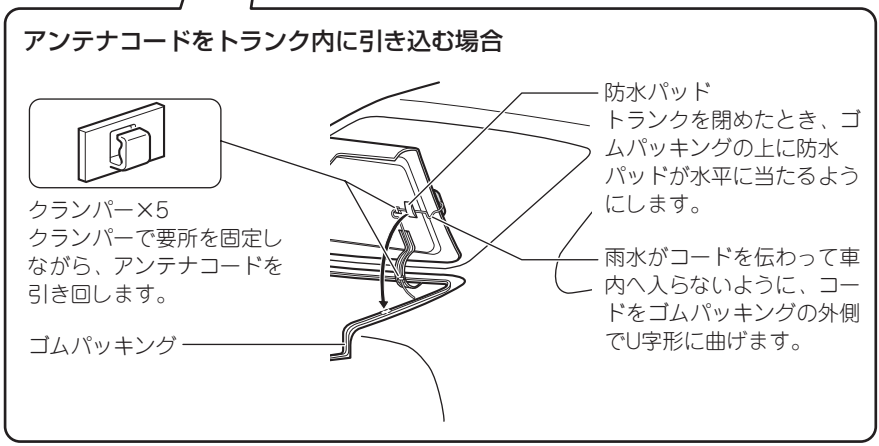
メ モ

- 車のウィンドガラスの一部に、GPS衛星の電波を通さないものがあります。GPSアンテナを車内に取り付けたときに、GPS衛星からの電波を受信しにくい場合は、一度アンテナを車外に取り付けてみてください。

車外（車のボディ）に取り付ける場合

車のルーフやトランクリッドの、なるべく水平な場所にGPSアンテナを置きます。（GPSアンテナの磁石で固定されます。）





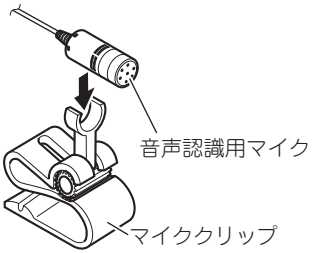
音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。

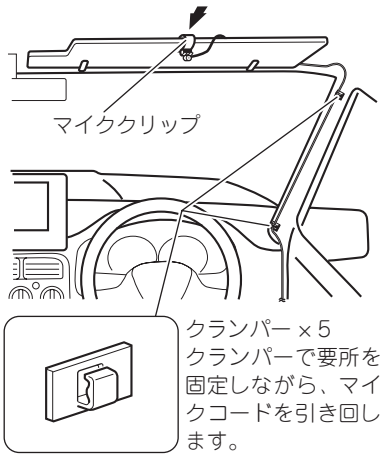
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける



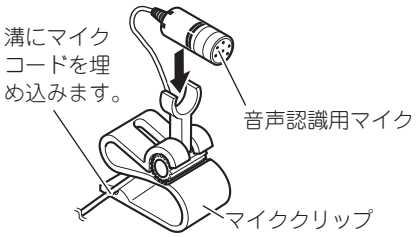
2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。

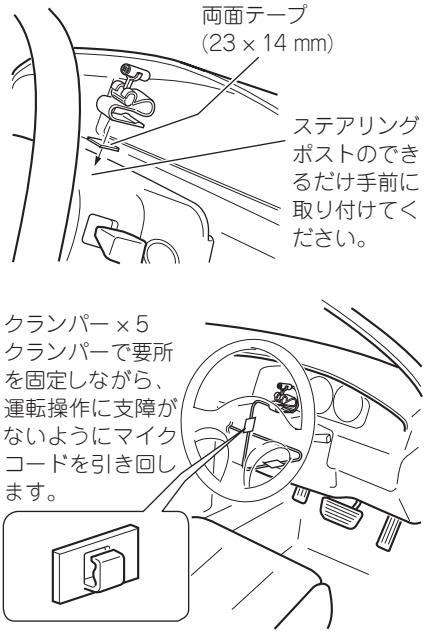


ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける

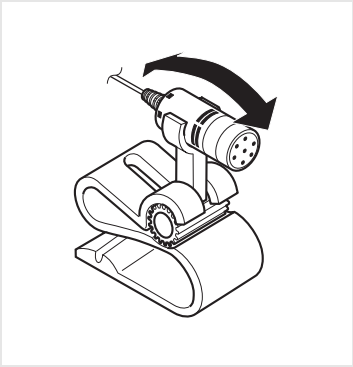


2 ステアリングポストにマイククリップを取り付ける



マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を前後に動かして調節します。

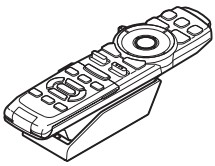


リモコンの取り付け

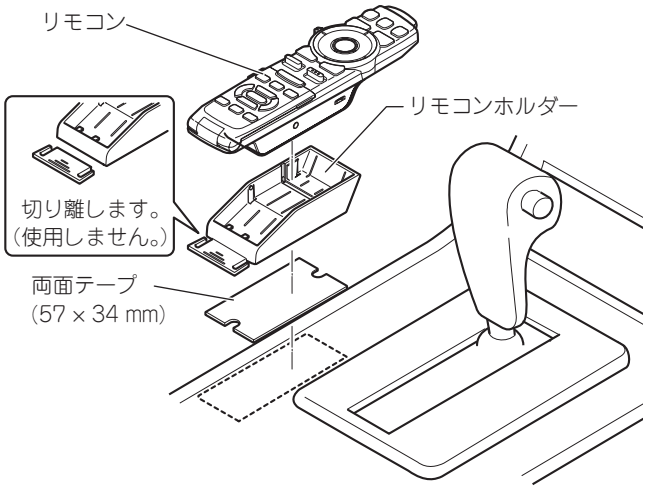
両面テープで取り付ける場合

付属の両面テープ（57 × 34 mm）を使用して、リモコンホルダーを貼り付けます。

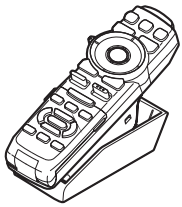
■水平にセットする場合



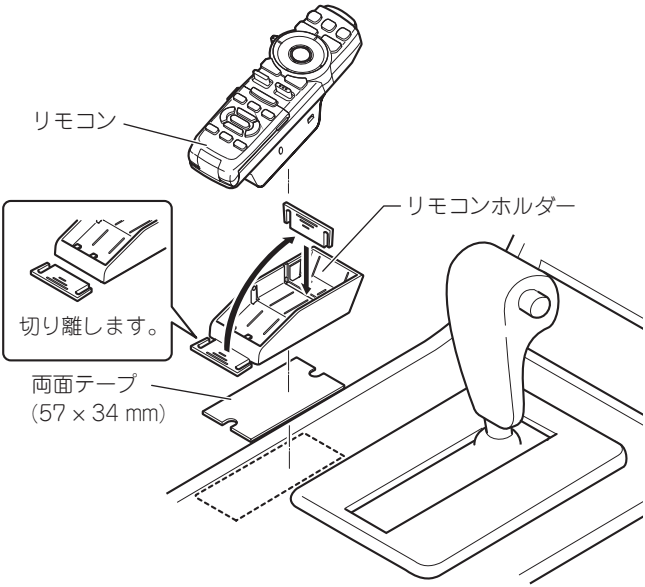
リモコンホルダーからのリモコンの付け外しは、少し堅めになっています。



■上向きにセットする場合



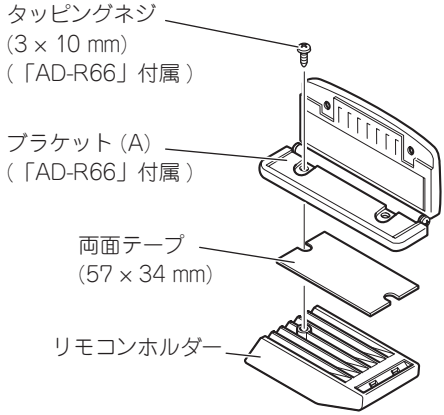
リモコンホルダーからのリモコンの付け外しは、少し堅めになっています。



別売の「AD-R66」を使用して取り付ける場合

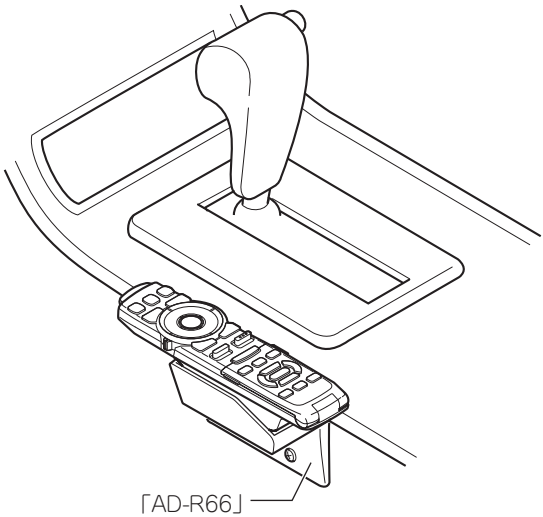
センターコンソールの幅が狭く、センターコンソール上にリモコンの取り付けスペースがない場合は、別売のメインコントローラーアタッチメント「AD-R66」を使用して取り付けます。

1 「AD-R66」に付属のブラケット (A) にリモコンホルダーを取り付ける



2 「AD-R66」を車に取り付ける

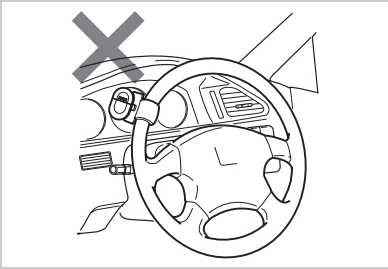
「AD-R66」の『取付説明書』を参照して、車に取り付けます。

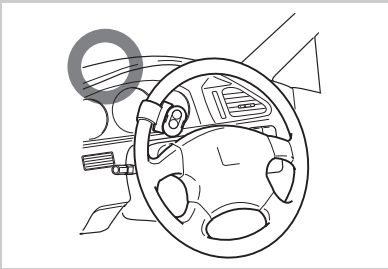


音声認識コントローラーの取り付け

取り付け上のご注意

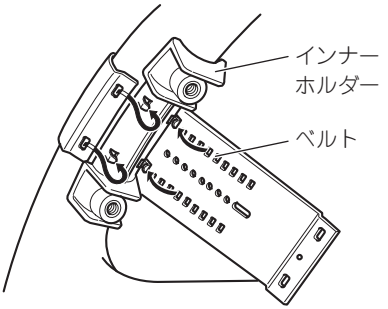
- エアーバックなどの車の安全装置が働いたときに、その動作の妨げになる場所には絶対に取り付けないでください。
- 車のメーター類の、視認の妨げになる場所には取り付けないでください。
- 取り付ける位置や向きによっては、音声認識コントローラーの信号がリモコン受光部にとどかない場合があります。固定する前に、取り付ける位置で、動作確認を行ってください。(動作しない場合は、コントローラーの上下や裏表を逆にしてみてください。それでも動作しない場合は、取り付け位置を変えてください。)
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの左または右側のリモコン受光部に近い方(右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側)に取り付けてください。逆側に取り付けると、音声認識コントローラーの信号がリモコン受光部にとどかないため、動作しないことがあります。
- ハンドルに取り付けるときは、付属のベルトでしっかりと固定してください。しっかり固定しないと、運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの外側に取り付けないでください。運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。必ずハンドルの内側に取り付けてください。



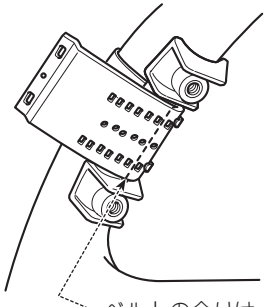


ハンドルに取り付ける場合

1 ハンドルにインナーホルダーを取り付ける

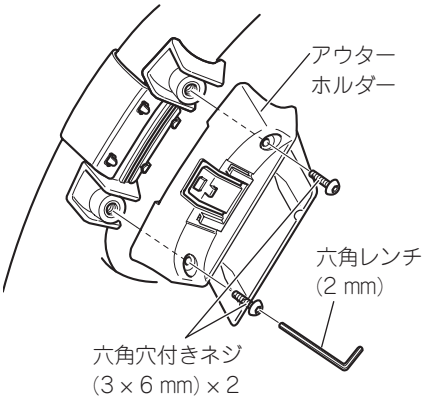


2 ベルトの余りを切り取る

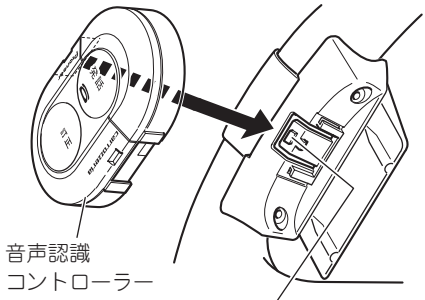


ベルトの余りは、ホルダーの中心の位置で切り取ります。
切り取ったベルトの余りは、予備として保管しておいてください。

3 インナーホルダーにアウターホルダーを取り付ける



4 音声認識コントローラーを取り付ける



音声認識コントローラーを取り外すときは、ここを押しながら、音声認識コントローラーを手前にスライドさせます。

メモ

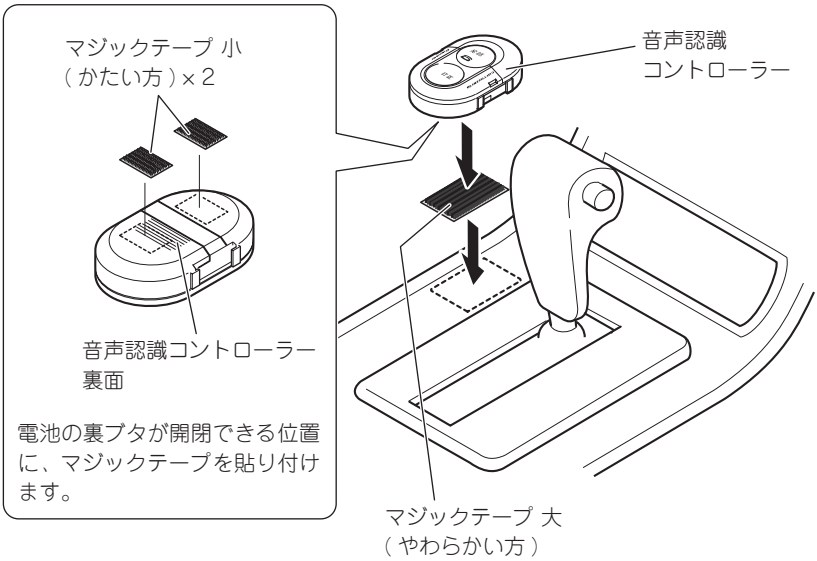
- 上図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車に取り付ける場合は左右逆に取り付けてください。
- ハンドルの太さによっては、切り取ったベルトの余りが、使えない場合があります。

音声認識コントローラーの取り付け

つづき

マジックテープで取り付ける場合

付属のマジックテープ 小（かたい方）を音声認識コントローラーの裏面に、マジックテープ 大（やわらかい方）を取り付け場所に貼り付けます。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが、故障ではありません。
- アンテナは、フロントウィンドウ上部専用です。車体の側面（ドアやフロントクォーターウィンドウなど）や、後面（リアウィンドウなど）に貼り付けると、受信感度が低下する場合があります。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- フロントガラスに横352 mm × 縦103 mmの2枚分のスペースが無い車には、取り付けることができません。
- ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両には、取り付けることができません。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 保安基準※に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。

※保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省（現、国土交通省）令第95号をいいます。

- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んで下さい。
- 気温が低いときに作業を行なうときは、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてフロントウィンドウを暖めておいてください。

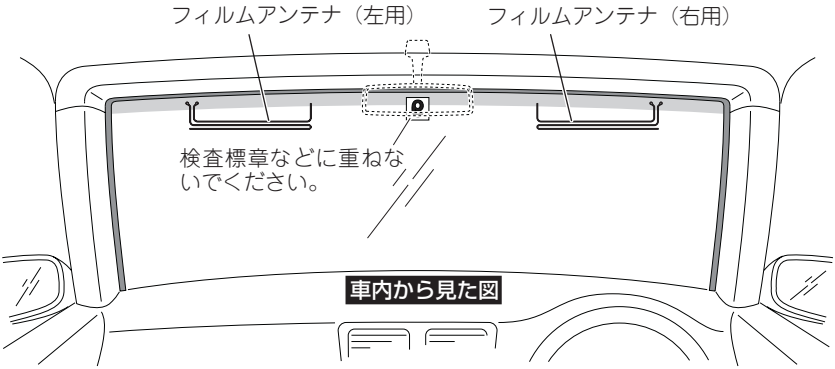
一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。

必ずコードおよびフィルムアンテナを仮止めし、コードの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

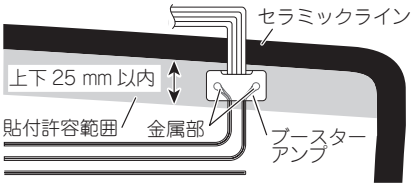
⚠必ずお守りください

運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず下図の「ブースターアンプおよび金属部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

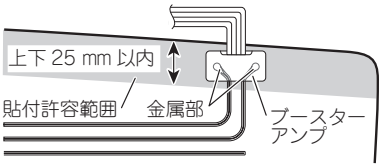


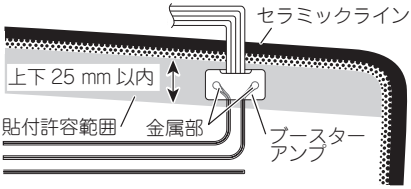
ブースターアンプおよび金属部の貼付許容範囲

■ セラミックライン有り



■ セラミックライン無し



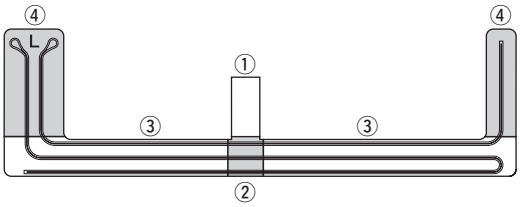


フィルムアンテナの取り付け

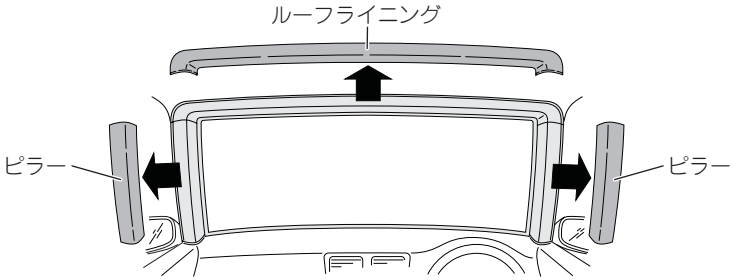
つづき

フィルムアンテナを貼り付ける

フィルムアンテナの裏シートには5本のスリットが入っています。下図の番号順に裏シートをはがし、フィルムアンテナをフロントウィンドウに貼り付けます。

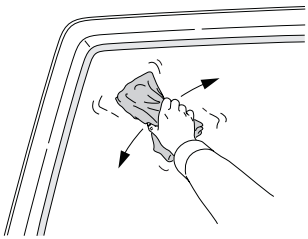


1 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



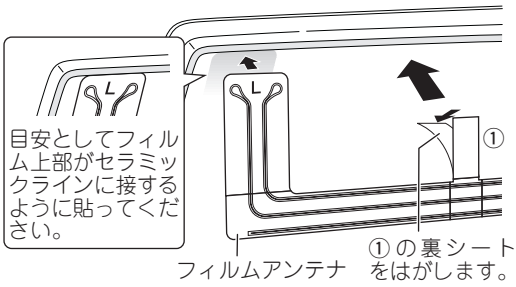
2 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

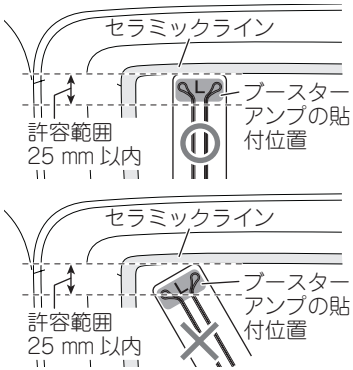
フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。



3 ①をはがし、フロントウィンドウ内側に仮貼りを行い、貼り付け位置を決める

フィルムアンテナには左用、右用があります。Ⓛは左側に、Ⓡは右側に貼り付けてください。



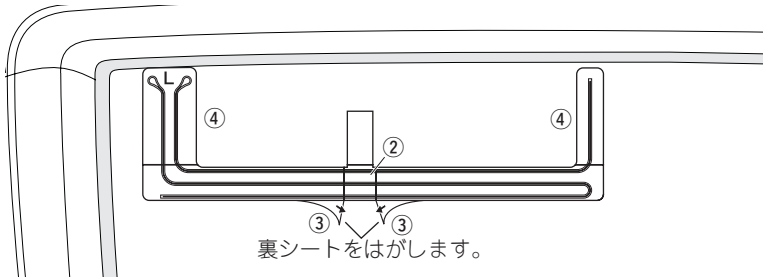


メモ

● 取り付け例としてセラミックライン有りの車で説明しています。詳しくは貼付許容範囲（☞ 49ページ）を参照してください。

4 ②～④を番号順に、はがしながらフロントウィンドウにしっかりと密着させる

③、④は左右どちらが先でもかまいません。
③、④をはがす時には、内側からシワにならないように密着させてください。



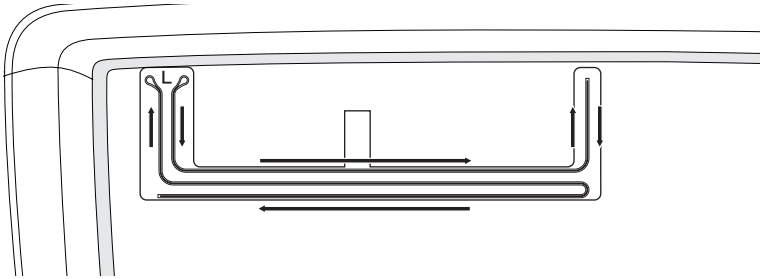
フィルムアンテナの取り付け

つづき

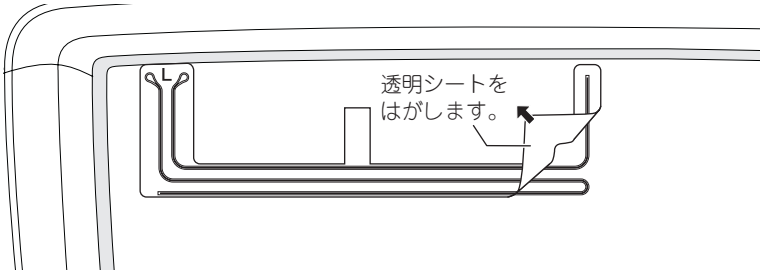
フィルムアンテナを貼り付ける

5 透明シートの上から しっかりと密着させる

下図の矢印の方向に、アンテナパターンに沿ってこすり、密着させてください。



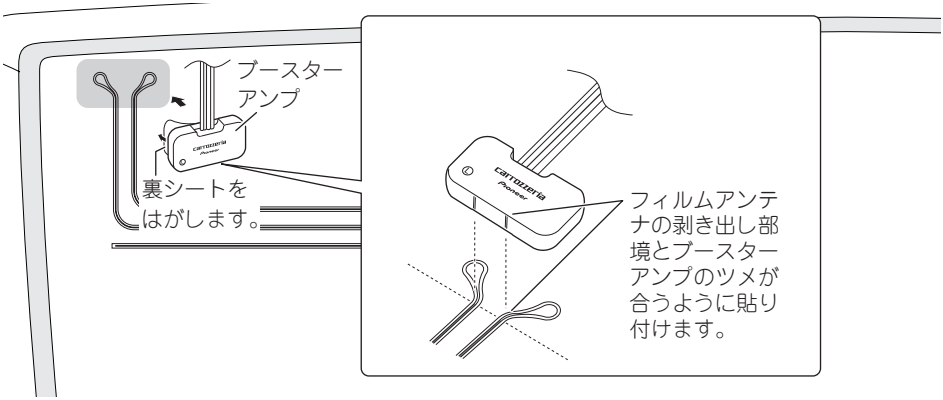
6 透明シートを ゆっくりとはがす



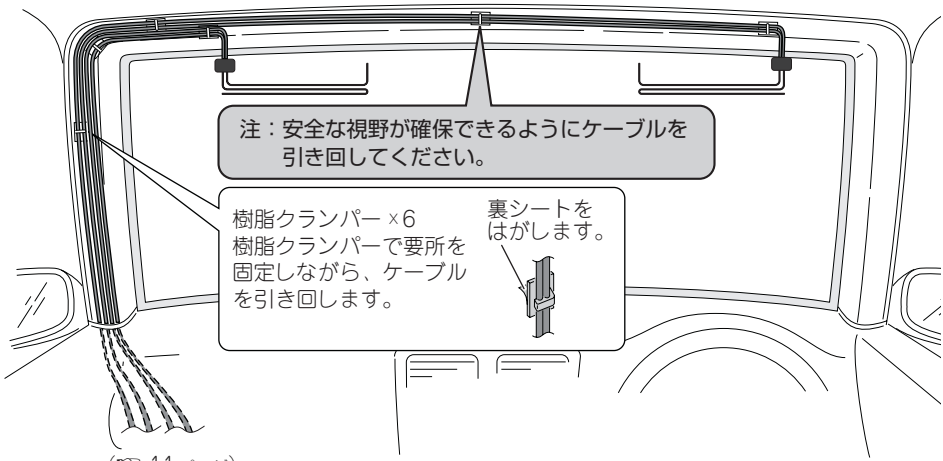
7 残りのフィルムアンテナも 同様に貼り付ける

8 ブースターアンプをフィルムアンテナの金属部に貼り付ける

ブースターアンプには左用、右用があります。Ⓛは左側に、Ⓡは右側に貼り付けてください。



9 ケーブルを引き回す



（☞ 11 ページ）

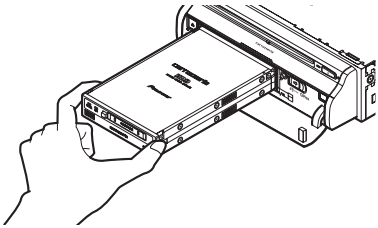
10 内張りを元に戻す

接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、はじめに接続・取り付けの確認を行ってください。

1 ブレインユニットを取り付ける

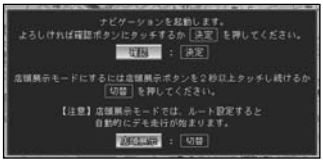
（☞『スタートブック』）



2 車のエンジンをかける



3 次の画面が表示されたら 確認 にタッチするか〔決定〕ボタンを押す



注： 店頭展示 のタッチまたは、〔切替〕ボタンを押さないでください。
タッチまたは押してしまった場合は、一度車のキーを抜いてからエンジンをかけ直してください。

この画面は、初期学習（☞ 58ページ）が完了してないときにエンジンをかけると表示されます。

4 接続・取り付けの確認を行う

（☞ 次ページ）

5 接続確認が終わったら、〔現在地〕ボタンを押す

（続いて入力設定を行います。☞ 56ページ）

メモ

●正常に動作しない場合は、リセットボタンを押してください。（☞『スタートブック』）

接続・取り付けを確認する

取付け状態画面



1 地図画面で〔メニュー〕ボタンを押し、**情報・通信** → **ハードウェア情報** → **取付け状態** の順に選ぶ。

2 取付け状態画面が表示されます。各項目の接続・取り付け確認をしてください。

■取付け状態画面の見かた

車速パルス：車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音がして、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5 km程度）で行ってください。

GPSアンテナ：GPSアンテナの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば **[OK]** が、未接続の場合には **[NG]** が表示されます。
その右側に表示されているアンテナのイラストはGPSアンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。バーが1本以下の場合は、GPSアンテナの位置を変えて2本以上バーが表示される位置に取り付けてください。GPSアンテナの取り付け上のご注意（☞ 38ページ）を参照して、取り付け位置を確認してください。

取付け位置：ハイダウェイユニットの取り付け状態を確認できます。停車時に **[NG（振動）]** が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付けて、停車時に **[OK]** が表示されるのを確認してください。また **[NG（取付け角）]** が表示された場合は、ハイダウェイユニットの取り付け角度が許容範囲外となります。取り付け角度（☞ 25ページ）を変更し、停車時に **[OK]** が表示されるのを確認してください。

パーキングブレーキ：パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると **[OFF]**、かけ直すと **[ON]** が表示されます。

電源電圧：車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11～15 Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。また、表示誤差（ ±0.5 V程度）があるため、この表示は参考値です。

イルミネーション：イルミ電源（橙/白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると **[ON]**、消すと **[OFF]** が表示されます。

バック信号：バック信号入力（紫/白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR（リバース）の位置からR（リバース）以外の位置にすると **[HIGH]** と **[LOW]** の表示が入れ替わります。
この接続は、車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバース位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。
※接続しないと前進後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。
※バックカメラ（バックカメラユニット「ND-BC1」）を利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

ビーコンユニット：VICS用ビーコンユニット「例：ND-B5」（別売）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば **[OK]**、未接続の場合には **[NG]** が表示されます。

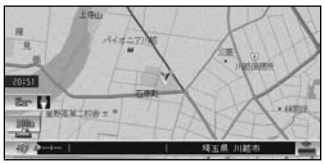
ETCユニット：アンテナ分離型ETCユニット「例：ND-ETC3」（別売）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば **[OK]**、未接続の場合には **[NG]** が表示されます。

●画面の表示が記載されているようにならなかった場合は、正しく接続されていません。もう一度、接続に間違いがないか目で見て確認してください。

AV入力の設定を行う

本機に市販のVTRやバックカメラ（バックカメラユニット「ND-BC1J」）など外部機器を接続したときは、こちらの手順でそれぞれの項目の入力設定を行います。

1 地図画面で、〔NAVI/AV〕ボタンを押す



2 〔メニュー〕ボタンを押す



3 システム設定 を選ぶ



4 AV入出力設定 を選ぶ



5 該当する項目を選ぶ



VTR1

ON：VTR1がONになります。

OFF：VTR1がOFFになります。

VTR2

ON：VTR2がONになります。

バックカメラ：バックカメラを接続したときに選びます。

OFF：VTR2がOFFになります。

バックカメラ極性設定

極性については、ナビゲーションの情報メニューから「ハードウェア情報」で確認できます。（☞ 55ページ）

LOW：バックギアを入れたときに、バック信号線の電圧がLOWとなる車両の場合、選びます。

HIGH：バックギアを入れたときに、バック信号線の電圧がHIGHとなる車両の場合、選びます。

6 戻る を選ぶ



地図画面に戻すには、〔現在地〕ボタンを押します。

メモ

●「VTR1、2」をONしたときは、手順6の操作後にソース選択を行い、そのソースの映像と音声に切り替わる事を確認してください。

センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了後、走行を開始すると本機は自動的に3Dハイブリッドセンサーの初期学習を行います。

その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてから、確認にタッチするか〔決定〕ボタンして初期学習をやり直してください。

＜走行開始後のエラーメッセージ＞

- [車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。]
  ピンクリード線（車速信号入力）の接続を確認してください。正しく接続すると、3Dハイブリッドで初期学習をやり直します。

- [3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。ハイダウェイユニットの取付け角度や向きを確認後、決定を押してください。取付けが正常な場合は、販売店またはサービスステーションに御相談ください。]
  ハイダウェイユニットの取り付け角度や向きが間違っていないか確認してください。取り付け角度が正しい場合は、内蔵のセンサーの故障が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

- [車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。]
  ピンクリード線（車速信号入力）の接続先を確認してください。

＜その他のエラーメッセージ＞

- [内蔵のセンサが異常です。販売店、またはサービスステーションに御相談ください。]
  内蔵のセンサの故障が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

- [測位不能になりました。販売店またはサービスステーションに御相談ください。]
  ハイダウェイユニットの故障、劣化等が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

- [GPSアンテナが接続されていません。接続を確認してください。]
  [GPSアンテナが異常です。販売店またはサービスステーションに御相談ください。]
  GPSアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

- [車速信号線が外れました。接続を確認してください。]
  ピンクリード線（車速信号入力）の接続を確認してください。

- [取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。]
  ハイダウェイユニットの取付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。